

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	48.1	47.5	47.9	47.5	48.7	47.9
2年	前年度結果 偏差値平均	50.3	50.7	50.0	52.1	50.9	50.9
	本年度結果 偏差値平均	50.6	47.4	47.3	49.9	48.9	48.8
3年	前年度結果 偏差値平均	51.1	48.9	48.0	50.2	47.9	49.1
	本年度結果 偏差値平均	49.4	50.1	48.4	49.1	46.8	48.8
全体	前年度結果 偏差値平均	50.1	49.2	48.1	49.7	48.0	48.9
	本年度結果 偏差値平均	49.4	48.3	47.9	48.8	48.1	48.5

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	69 (100)	43 (86)	/
本年度結果 (対県比)	68 (98)	49 (100)	41 (95)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>○国語…①段落の働きや物語の展開を読み取れていない。②物語文の前後の関係を読み取り、適語を補充することができない。</p> <p>○社会…①個別的知識を整理して理解しておらず、知識を関連付けて定着できていない。②資料から事実を正確に読み取ることができない。</p> <p>○数学…①符号や小数・分数を含む計算の基本的な知識・技能が身につけていない。②表やグラフを式で表現できない。</p> <p>○理科…①目に見えない基本的な概念の知識・理解が身につけていない。②実験・観察の結果を分析し解釈することが苦手である。</p> <p>○英語…長文の読解ができない。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>○数学…「データの活用」内容の累積度数の意味や箱ひげ図の見方などの基本的な知識・技能が身につけていない。その他にも「自然数」や「比例定数」の用語の意味が曖昧である。</p> <p>○英語…長文読解(itが示すものなど)ができない。特定の条件(指定された語句や文脈)の下での作文が苦手である。</p> <p>○国語…具体的な事例や根拠を挙げて説明をすることができない。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>全国比を基準として、全学年に共通する傾向。</p> <p>○クロス集計における「生活支援レベル」については一次支援の割合が全国を大きく上回る。(全国50.7%, 本校3年75.0%, 2年76.0%, 1年68.5%)。</p> <p>○「学習支援レベル」については、一次支援の割合が全国と比して下回るか、近い数値となっている。(全国53.1%, 本校3年47.8%, 2年53.3%, 1年46.9%)。</p> <p>○学年別では、1年生が生活支援・学習支援ともに最も低い。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>○全体では、一次支援の割合が微増。</p> <p>○1回目と比較した各学年の状況は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は1次支援の割合が低下し、二次支援の割合が増加。学習意欲が全国を下回る。 ・2年生は顕著な変化は見られない。学習意欲はやや低下。 ・3年生は二次支援・三次支援の割合が低下し、一次支援の割合が増加。学習意欲が上昇。

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が、授業・家庭学習を通して、各教科の基礎的・基本的な事項や語句の理解を進められるよう繰り返し学ばせ、知識・技能を定着させる。</p> <p>○全教諭が、文章・資料の読解を学習活動に組み込み、思考・判断・表現力を向上させる。</p> <p>○自分の考えや思いを適切に言語化する力を育てる。</p>	<p>①5教科の各担当を中心にNRTの結果を分析し、課題の抽出と改善に向けた取組を検討し、全体研修を通してその内容を共有する。</p> <p>②全教員が資料を読解し、考えを表現する活動を授業に組み込む。</p> <p>③全教員が、定期試験に「資料の読解」について評価する問題を出し、授業でフィードバックする。</p> <p>④全学級で、本GOノートを活用して、基礎的・基本的な知識の反復と学習内容のまとめを家庭で取り組めるよう手本を示す。</p> <p>⑤思いや考えを表現できる力の育成に向けて「振り返り」の改善を図る。</p>	<p>①7月～8月</p> <p>②年間を通して</p> <p>③定期試験(10月中旬, 11月下旬, 学年末)</p> <p>④年間を通して</p> <p>⑤10月～</p>	<p>○各教科で、3学期に入ってから、今年度NRTで課題のみられた問題を抽出して、もう一度解かせ、正答率を向上させる。</p> <p>○生徒授業アンケート「書くこと」の肯定的評価の向上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全教諭が、NRTとQ-Uのクロス集計表における三次支援・二次支援の必要な生徒について共通理解を深め、適切なかかりを行う。</p> <p>○「何のためにやるのか」「何をどうしたらいいのか」を考えさせる中で、生徒会・委員会活動を活発化させる。</p>	<p>①Q-Uの結果に基づいて、各担任とSCとのコンサルテーションを実施する。</p> <p>②コンサルテーションに基づき、生徒とのかかりや学級経営の仕方の見直しを、各学年で話し合い、全体で共有する。</p> <p>③全学級において、学期1回以上の個別面談を実施する。</p> <p>④生徒指導部を中心に、生徒の状況について報告・連絡・相談を緊密化させ、確実な取組を行っていく。職員朝会等で生徒指導報告を行い、全教員が生徒指導の状況を把握する。</p> <p>⑤教職員全員でルールや規律の見直し・共通理解を図り、生徒の活動につなげる。</p>	<p>①6～7月</p> <p>②8月</p> <p>③学期に1回</p> <p>④7月～3月</p> <p>⑤9月～</p>	<p>○12月のQ-Uにおける三次支援・二次支援生徒の減少</p> <p>○生徒アンケート「学校への満足度」「主体的な活動」への肯定的評価の向上</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

<p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○NRTをもとに、各教科で課題の抽出と分析を行い、各教科において取組を進めることができた。「書くこと」の肯定的評価は87.5%から92.5%とやや向上した。</p> <p>○Q-Uの活用による学級経営の見直しや、生徒会活動の見直しと共通理解が進められた。</p> <p>●1学年の低学力層、Q-Uの二次支援や三次支援の割合が他の学年に比べ高く、生徒指導部と連携し、積極的な生徒指導と授業改善を軸に取り組む。また、生徒アンケート「主体的な活動」に関する肯定的な評価は変わっていないが、「よくあてはまる」に関してみると7%低下しており、生徒の主体性を引き出す取組が必要である。</p>
--

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
新2年	目標値	50	50	50	50	50	50
	偏差値平均						
新3年	目標値	51	50	50	50	50	50.2
	偏差値平均						

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学
目標値 (対県比)	69 (100)	49 (100)